

No	質問内容	資料	回答内容	資料	備考
1	燃料温度の算出方法の中で求めたピーキング係数3.8は保守的であるが、炉心毎に保守性が変わり、温度上昇の炉心の大小が変わると考えられる。添付八で評価した δ (ノミナル値)を用いた値について説明すること。	381回審査会合資料【補足-E】P49			
2	提示された方法では炉心寸法は影響しないが、保守性をとらずに評価する場合の各炉心のa,bの値について数値を示すこと	P49			
3	燃料温度の算出方法における式(E-2)の導出について、詳細に説明してください	P48			
4	熱中性子束分布については、単位出力当たりで規格化するなどして、絶対値で説明すること。また、セル平均の中性子束の値を示すこと。	P51-53			
5	燃料板内の出力分布の考慮について、固体減速炉心は1.09倍、LL1炉心は1.23倍としているが、L1炉心は1.09~1.23の範囲にあると考えられる。減速毎に求めてスペクトルの影響について説明すること	P50			
6	代表炉心で水平断面が矩形になっていない炉心に対して、コサイン分布を仮定した算出方法が妥当であることについて説明すること	全体			
7	実験装荷物の異常について、固体減速炉心における実験装荷物の反応度の上限が過剰反応度を越えていることから、添付八の制御棒の反応度値で停止余裕を満たさない炉心がでることから、考え方を整理すること	P52			
8	パルス中性子発生装置については、実際の中性子強度について説明すること	P8			

9	一点炉動特性方程式の外部ソース項の評価方法について説明すること	P8			
10	ポリエチレン板、アルミさや管まで含めた場合の温度上昇について詳細に説明すること	【補足-F】 P56 表F=3			
11	1点炉動特性で用いている各パラメータの値に示すこと(代表炉心の事例)	ヒアリング資料 P12			
12	炉心と中性子発生装置の位置関係について、詳細に説明すること。また、各代表炉心についての立体角の求め方と値についてまとめて示すこと	同上			
13	パルス中性子発生装置については、測定値などのエビデンスを示し、現在の強度範囲について説明すること。	同上			